

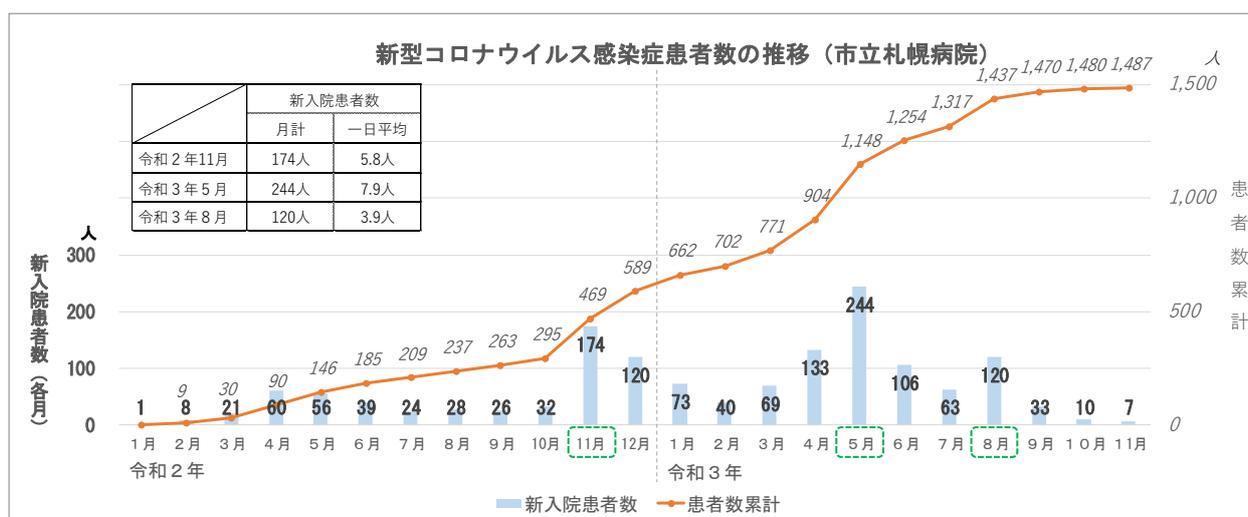
## 市立札幌病院における新型コロナウイルス感染症への対応と一般診療の状況について

## 1 新型コロナウイルス感染症患者の入院状況

## (1) 入院患者数の累計

当院では、第一種及び第二種両方の指定を受けた感染症指定医療機関としての役割を果たすため、昨年1月より新型コロナウイルス感染症における重症患者及び中等症患者の受入れを積極的に行っております。

令和2年1月から令和3年11月までの入院患者数累計は、1,487人となっています。



## (2) 令和3年度の受入状況

令和3年3月下旬からの感染拡大期（道内第4波）では、市内の感染者がそれ以前と比較して格段に多く、当院では100床まで感染症病床を拡充し、最大で98人の患者を受け入れました。

一方、令和3年7月下旬からの感染拡大期（道内第5波）では、当院の入院患者数は第4波と比較して半数以下となりました。これは、市内医療機関の協力による受入病床の拡大や入院待機ステーションの整備、自宅療養者に対する診療体制の強化など、重症度に応じた医療提供体制が充実してきたことや、ワクチン接種が進んだことで、重症化する患者が減少したことによるものと考えています。

(令和3年度 期間別入院実績)

	4月～6月	8月～9月
入院患者数（期間平均）	69.3人/日	27.1人/日
うち重症患者数	5.5人/日	3.0人/日
入院患者数（最大）	98人/日	48人/日

※新型コロナウイルス感染症患者の入院状況及び確保病床等の推移は別紙のとおり。

## 2 新型コロナウイルス感染症患者の受入による一般診療への影響

新型コロナウイルス感染症の拡大期には、感染症用病棟に多くの医師及び看護師の配置が必要となることから、一般救急患者の受入制限、外来診療における新患受入休止及び入院病床の縮小など、感染状況に応じて一般診療の制限を行ってきました。

特に、令和3年5月下旬から6月前半は、一般病床588床のうち、一般診療に使用できる病床は過去最少の45%・265床のみと、多くの病院機能を制限しながら運用せざるを得ない状況となっていました。

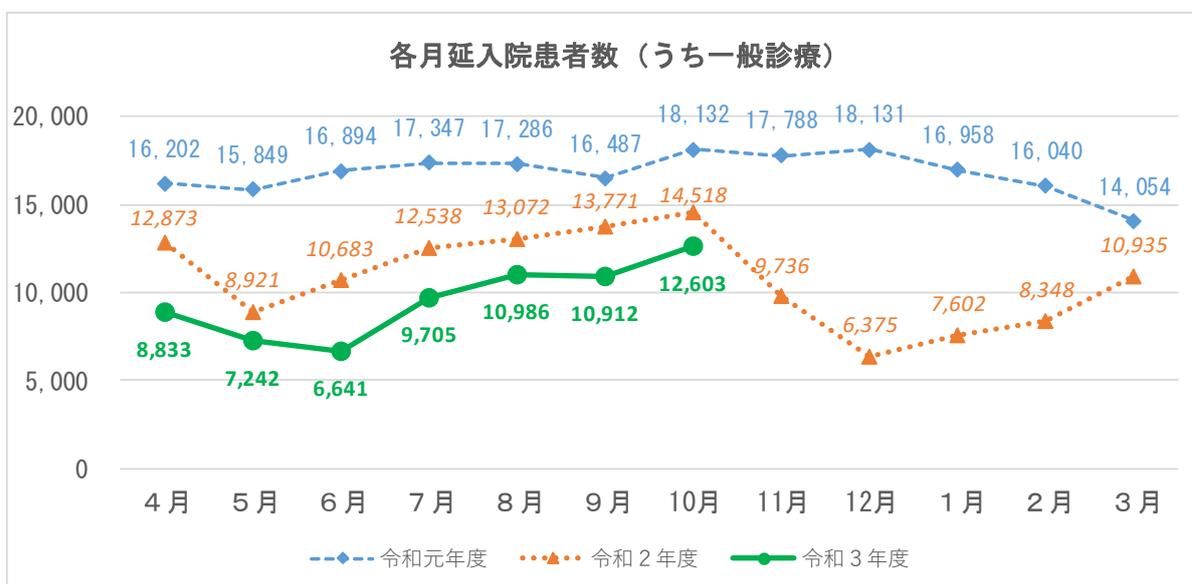
一方で、令和3年7月下旬頃からの感染拡大期では、ピーク時でも一般診療を約70%・414床で運用することができ、一般患者の治療についても、一定程度担うことができたところでした。

令和3年10月からは、一般診療の一部の制限は継続しているものの、概ね通常の診療体制を取ることができており、令和3年10月の一般診療の延入院患者数は12,603人（速報値）と、令和元年度同月の約7割の水準まで回復してきています。

（延入院患者数の各年度実績）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度（～10月）
延入院患者数	201,523人	139,859人	75,446人
うち一般診療	201,168人	129,372人	66,922人
うち新型コロナ	355人	10,487人	8,524人

※令和3年度は速報値



新型コロナウイルス感染症の状況は今後も予断を許さないところではありますが、引き続き札幌市保健所等と連携しながら、新型コロナウイルス感染症患者の治療と、高度急性期病院及び地域医療支援病院としての役割との両立を図ってまいります。